

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4373101015
法人名	社会福祉法人 洋香会
事業所名	にしき園グループホーム
訪問調査日	平成 20 年 6 月 1 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 8 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4373101015		
法人名	社会福祉法人 洋香会		
事業所名	にしき園グループホーム		
所在地 (電話番号)	〒868-0303 熊本県球磨郡錦町大字西大王原70 (電話) 0966-38-5070		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOまい		
所在地	〒862-0968 熊本市馬渡1丁目5番7号		
訪問調査日	平成20年6月1日	評価確定日	7月8日

## 【情報提供票より】(20年 5月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 3 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.2

### (2) 建物概要

建物形態	併設		
建物構造	木造型・鉄筋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	尿とりパット、受診、薬、衣類等約1万円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要( 5月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	万江病院 すまいる歯科
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然環境に恵まれ敷地の広さは石庭、農園、ゲートボール場、又縁側事業で地域交流の場を建設されハード面は充実しています。ソフト面でも職員教育、他事業所の見学研修をされ穏やかな空気と明るいうらび、職員の頑張りや木目のあたたかさを越えるものでした。今後認知症の対応方法がより科学的な根拠のもと実施されることが期待されます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	記録様式等の検討を前回の評価で指摘を受け、見直しが行われ情報収集がおこなわれるよう努力されている様子が伺える。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を各自が実施し、これまでの取り組みの意味づけや今後の取り組みの方向がみえてきた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されて意見交換はなされている。具体的な事例検討の場になったこともある。事例を通して具体的な質の向上に努められていた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	必要時電話連絡がなされている。園通信は発行していないので今後工夫していく予定。苦情や意見に対してはその都度ミーティングし利用者・家族にフィードバックしている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	場所から新興住宅の敷軒の子ども達の遊び場所として敷地内が活用されている。地域の方々の交流の場所としても活用されている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

↑  取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は法人の理念を工夫して掲げられており、グループホームの理念は「自然を愛し・地域を愛し・人を愛す」である。	○	理念にある自然の概念を明確にされ、具体的な行動レベルまで表現されたにしき園独自の理念を作り上げて行かれることを期待します。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設当初は毎日唱和されていたが、現在はされていない。日々の介護の中で何かにつけて管理者から意識的に理念と具体的ケアの関係が話されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子どもや保育園との交流はある。地域の自治会、婦人会、老人会等には入会していないが、以前所属していた老人会の友人が面会に来られ交流はあっている。	○	地域の老人会等に出掛けることも検討されている様子、今後の交流を期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域に根ざした開かれた施設を作るために前回の評価を確認する事ができた。自己評価を全員一人ずつ記入し、話し合ってまとめることで具体的な改善方法を導き出すことに役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。運営推進会議の中で利用者・家族の方から日頃の本人の状態についての相談もあっている。	○	運営推進会議で取り上げられた相談が単なる相談としてでなく、サービス向上に活かした取り組みとなるのが大切です。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同一敷地内に縁側事業の建物があり、地域交流に役立っている。その事もあり市町村との連携はある。	○	市町村との連携で今から先グループホームがどのような方向にすすむのか市町村と一緒に考えていかれることを期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	必要時の電話連絡、暑中見舞い、年賀状を通じての報告はなされている。	○	月1回の請求書を利用者・家族に郵送する際に併せて月1回の家族通信を出すことを検討中とのこと、個別の通信になるといいですね。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付はその都度なされており、スタッフを通じて細かな苦情があった場合はミーティングで話し合いがなされ、話しあった結果を管理者から本人・家族へ返答するようになっている。	○	苦情報告、ヒヤリハット・事故報告書等が細やかに記入され頻りに報告されているが、同じような報告書も多数みられます。対策のあり方の検討が必要です。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営母体との勤務移動があり、その際は慣れるまでは夜勤への配置を配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体での研修計画があり1回/月参加されている。外部研修への参加もある。研修後の伝達研修はないが復命書はあり。	○	研修後の伝達講習をグループホーム独自の勉強会にされたらいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に年6回参加、年末は職員全員が参加できるようにされている。見学日を決めて他事業所の見学を実施されていた時期もあったが今は中止している。	○	交換実習等の検討をされてはでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	予約を受けた時点で入居判定会議が行われケアマネが訪問調査を行い、入居間近になったときに見学が行われている。体験入居はされていない。	○	入所等に関係なく地域啓蒙の体験入所等検討されたいかがでしょうか。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	外来者への対応、お見送りの仕方など利用者から教えて頂くことが多いとの事。	○	現場の介護者が共に学ぶ姿勢が育つよう意識的に場作りをされることを期待します。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの持ち味をいかせるよう配慮され、生活歴を活かした役割を探すようにされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネがアセスメントを行いケアプランを立案しスタッフに依頼し、それに対してスタッフより意見があり計画を見直すようになされている。	○	サービス担当者会議で家族からも意見があり、計画立案し対応しているが、家族面会時に計画と違う対応をされる事があり、どこまで理解されているか不明な点もあるとの反省が聞かれます。理解して頂く努力も必要ですが、計画が現状にあっていないことも考えられます。色々な事を想定しながらより一層利用者本位の計画になることを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回定期見直しとされているが、ヒヤリ・ハット報告書やスタッフからミーティングの場で問題点があった時は随時見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の縁側づくり推進事業を始められグループホーム敷地内に交流センターが立てられ活動開始されたばかりである。多機能の機能を活かし柔軟な支援に向けて検討されている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医に家族が対応できない時はスタッフでの受診支援がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の対応を検討中で、担当者全員でその都度話し合いながら行われている。	○	終末期の指針等、グループホームとしての終末期のあり方や対応方法等を検討されることや、終末期についてのスタッフの意思統一、各機関との連携等についても考慮されることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応等でプライバシーを損なわないよう留意されている。ミーティングノート、カルテ等は事務室に保管されている。居室入り口には記名があるが表札として考えられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	馴染みの関係ができるまでは時間をかけて対応されている。馴染みの関係からその人のペースと業務のバランスはうまくいっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者がとった野菜やランチョンマントを使用し、テレビを消して音楽をかけ、職員も一緒にゆっくりとした食事を楽しむ時間をとるようになされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均して一人当たり週3～4回の入浴回数。昼から一人一人のタイミングに合わせて入浴されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴の中から漬け物づけ、畑仕事、台ふきなどの楽しみ事を見つけそれぞれの利用者の役割を大切に支援するようになされている。	○	役割の変化時期に対する工夫が必要です。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩支援があり要望時の買い物支援やイベント的な外出支援は行われている。。併設のデイ利用者との交流もある。	○	周辺環境からも人との交わりの中での外出支援も必要になってくるでしょう。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	20時～7時まで玄関は施錠されている。居室に鍵はない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防訓練は年4回行われている。	○	夜間等1ヶ所に集まる場所を近所の方がどれだけ理解しているか、訓練で職員が認識しているかが大切です。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士の献立をベースに対応されている。食事摂取量はチェックされ、必要時は医師の指示のもと高カロリーの補助食品が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はホールやベランダで過ごす方が多く、入居当初は天井が高いことで戸惑われる利用者の方も馴染みの関係ができることでその戸惑いもなくなっている。天井の高さや、ホールの広さが不安要素になることを理解し、飾りやアコーディオンカーテンでの工夫がみられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持参されるよう説明されているが、持参は少ない。1人1人の居室環境をその人にあったスペースになるよう配慮されている。	○	慣れるまでは馴染みの品物があった方がいいでしょうが一番の馴染みは人間関係です。認知症を理解されたスタッフが対応され馴染みの関係を作っていられるよう期待します。